



DG Value News

第33期のご報告 2013年4月1日～2014年3月31日

Vision
ビジョン

イメージをカタチに

私たちローランド ディー.ジー.は“イメージをカタチにする”ソリューションを世界中の人々に提供し、新たな創造の世界を切り拓いていくことを目指しています。

私たちは、Imagine.(想像)こそがすべての分野における創造の原点であると考え、お客様が描いているImagine.の世界を大切に、お客様とともに「想像を超える創造」を実現していきます。

▶世界200以上の国と地域で

連結販売会社を中心に、世界200以上の国と地域のお客様に製品やサービスを提供しています。

● 連結販売会社



▶独創的な事業展開

当社では、カラー事業と3D事業の2分野を中心に、デジタル技術でものづくりを効率化するソリューションを提案しています。

カラー事業



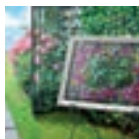
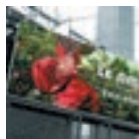
屋内外の大型看板やポスターなどを製作するサイン業界に向けて、業務用大型インクジェットプリンターを展開しています。

3D事業

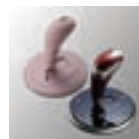


製造業や医療分野などに向けて、刃物を使って形状を削り出す3D切削加工機やデジタル彫刻機、3Dレーザースキャナーなどを提案しています。

デジタル印刷



製造業



医療



パーソナル



企業スローガン

**創造の喜びを世界にひろめよう
BIGGESTよりBESTになろう
共感を呼ぶ企業にしよう**

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第33期(2013年4月1日～2014年3月31日)が終了いたしましたので、
事業の概要および連結の決算のご報告を申し上げます。

代表取締役社長 富岡昌弘



● 第33期 連結業績

新製品効果と為替の影響により、売上高は前期を大きく上回りました。

当期における世界経済は、米国では、緩やかな景気の回復基調が持続し、欧州では、南欧地域において景気低迷が続いたものの、ユーロ圏全体では改善に向かいました。また、アジアでは、中国など新興国の経済成長の鈍化傾向が続きましたが、日本においては、円安や株価の上昇を受け、景気は穏やかに回復しました。

当社グループでは、変化の激しい経営環境に対応すべく、グループ一体となり総合力を発揮することを目指す構造改革「GlobalOne(グローバルワン)」に取り組んでおります。その具体的な施策と数値目標を3ヶ年の「中期経営計画」にまとめ、当期より実施しており、持続的な成長を実現できる強固な経営基盤の構築を目指しています。

こうした中、売上高はプリンターの新製品とデンタル加工機などが好調に推移したことに加え、円安効果もあり、前期を大きく上回りました。費用面では販売費及び一般管理費は増加したものの、新規連結子会社の連結効果に加え、プリンターの新製品を中心に生産量が増加し

たことや、円安にともなう海外子会社の仕入れコストの低減などにより、原価率は大幅に改善しました。

この結果、利益面でも営業利益、経常利益、当期純利益ともに前期を大きく上回り、増収増益となりました。なお、配当につきましては、期末の配当を20円、年間では前期から10円増配の40円とし、配当のお支払いを2014年6月19日より開始いたしました。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

■ 第33期 連結業績

売上高	421億41百万円	前期比	34.8%増
営業利益	61億11百万円	前期比	329.2%増
経常利益	62億44百万円	前期比	377.8%増
当期純利益	42億65百万円	前期比	1,096.6%増

● カラー事業

付加価値提案により プリンターが好調に推移しました。

サイン市場のリーディング企業として、先進国だけでなく新興国を含めて各地域に合った製品サービスの提供を実現する「Region Ready (リージョン・レディー)」に取り組んでいます。

サイン市場が成熟化傾向にある先進国では、高付加価値な製品の提案により市場の活性化を図っています。

プロ用機種 of XR-640 は、優れた色再現性や美しい写真表現に加え、メタリックインクおよび白インクによる多彩な表現力が高い評価を得て、既存ユーザーを中心に好調な販売となりました。また、昨年 4 月に発売した新製品 XF-640 は、当社史上最速の出力スピードを実現し、仕事量の多い大手サイン製作会社への導入が進みました。昨年 10 月には、ステッカーや POP などを効率的に製作できるプリント & カット機能を搭載した新製品 VS-i シリーズをリリースし、付加価値の高いサイン製作の提案に注力しました。

一方、新興国では、これまで未開拓だった地域へのア

プローチを含め、積極的なセールス・マーケティング活動を展開しています。特に、中国、韓国、ブラジルにおいては、前期に設立した販売子会社が本格的な活動を開始したこともあり、導入しやすい低価格なプリンターを中心に販売が大きく伸長しました。当期は、これらサイン市場向けのプリンターが年間を通じて好調に推移し、売上を力強く牽引しました。

また、紙以外のさまざまな素材に直接印刷が可能な UV プリンターを活用した、新しいプリントビジネスの提案にも取り組んでいます。なかでも卓上型の LEF シリーズは、昨年 9 月に生産性に優れた新製品 LEF-20 をラインナップした効果もあり、スマートフォンケースなどへ好みの絵柄や文字を印刷するカスタマイズ用途で、オリジナルグッズ業界に広く浸透しました。

● 3D事業

デンタル加工機が大きく伸長しました。

従来からの主力分野である製造業や彫刻業に加え、デジタル化が急速に進むデンタル(歯科医療)分野など、3D(3次元)データを活用することで、効率化を進める3Dもののづくり分野に向けた活動を強化しています。

✓ CHECK

NEW

2013年10月2日発売
VS-300iは2013年12月2日発売



VersaCAMM

印刷とカットができるプリント & カット機の主力機を刷新し、フルカラー、メタリックシルバー、白に加えてライトブラックに対応しました。モノクロ写真や金属調の表現はもちろんのこと、淡い色合いや中間色を含む人肌のトーンも自然ななめらかさで再現。付加価値の高いサイン製作の提案により需要を喚起してまいります。

NEW

2013 年
10月2日発売



DWX-4

小規模な歯科技工所の設置スペースや投資コストの課題を解決する、コンパクトサイズのデンタル加工機。一般的なノートパソコン程度のスペースに設置が可能。4軸制御と自動刃物交換装置を搭載したことで、従来機と同等の高い加工品質を実現しました。歯科医療業界のさらなる課題解決に貢献してまいります。

当期は、企業の設備投資意欲の回復にともない、ものづくり分野に向けた主力の3D切削加工機MDXシリーズや彫刻機EGXシリーズが堅調な販売となりました。

また、デンタル分野では、デジタル化された患者の歯型の形状データを活用して、素材から入れ歯や差し歯などの義歯を削り出すデンタル加工機DWXシリーズが大きく伸長しました。金や銀などの金属に替わる義歯の材料としてジルコニア^④などの優れた新素材が登場したこともあり、世界各国の歯科技工所で新しい義歯製作プロセスへの関心が高まっています。昨年10月には、小規模な歯科技工所や歯科医院でも導入しやすいコンパクトかつ低価格な新製品DWX-4を投入し、市場のさらなる拡大に取り組んでいます。

当社では、企業・個人を問わずものづくりのデジタル化に注目が集まる「新たなものづくりムーブメント」をビジネスチャンスと捉え、この成長分野に向けて、「デスクトップサイズ」「簡単操作」「導入しやすい価格」の特長を活かした小型切削加工機などを提供しています。

今後これら新市場への取り組みを強化し、新たな3Dビジネスの創出に注力してまいります。

④ ジルコニア

金属よりも高い強度を持ち、見た目も自然な歯の色に近い、セラミックの新素材。素材の特性上、DWXシリーズのような加工機による削り出しが義歯加工の唯一の手段となります。



● 第34期通期 連結業績予想

新たな成長に向けて、 GlobalOne を推進します。

当社では、グループ一体となって総合力を発揮するための構造改革「GlobalOne」を推進しています。セール

ス・マーケティングにおいては、世界を「欧州・中東・アフリカ」「アジア・パシフィック」「米州」の3つのブロックに括り、地域ごとのマネジメント体制の強化に取り組んでいます。各地域の販売子会社が、担当地域内の販売パートナーとの連携を強化していくことで、活動の効率化を図るとともに、最適なソリューションやサービスを提供していきます。また、新市場の開拓をよりスピーディに行うために、テキスタイルやインダストリアル、メディカルなどの分野において、市場ニーズを反映した製品の開発や新しいビジネスモデルの構築につながる専門的かつ集中的な活動を展開しています。ものづくりについては、競争力の高い製品を提供すべく生産効率の向上および海外部品調達の促進によりコストダウンを図ります。

今後もGlobalOneへの取り組みを強化し、新たな成長機会を創出していくことで業績向上に努めます。次期の連結業績は、下記のとおり増収増益を見込んでおります。

なお、中期経営計画につきましては、策定時と比べて経営環境が大きく変化した結果、初年度となる当期に最終年度の利益計画を達成いたしましたので、数値目標の見直しを行いました。(P9－10参照)

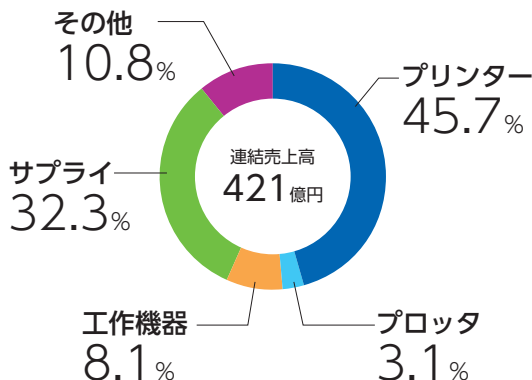
■ 第34期通期 連結業績予想

売上高	458億70百万円	前期比	8.8%増
営業利益	69億70百万円	前期比	14.1%増
経常利益	67億60百万円	前期比	8.3%増
当期純利益	43億00百万円	前期比	0.8%増



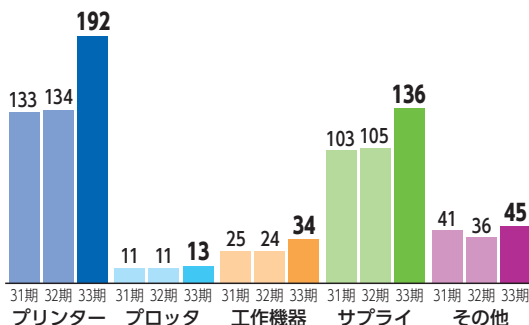
品 目 別

● 売上高構成比 (第33期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

プリンター

192億62百万円 (前期比 43.2%増)

主力のサイン市場に向けたプロ用機種 XR-640 と XF-640 が好調に推移しました。また、低価格機種の RE/RA シリーズが新興国を中心に大きく販売を伸ばしました。小型フラットベッド UV プリンター LEF シリーズは、スマートフォンケースなどのオリジナルグッズ製作用途で堅調な販売となり、プリンターの売上高は前期を大きく上回りました。

プロッタ

13億2百万円 (前期比 13.4%増)

主力機種の販売が堅調に推移し、前期を上回りました。

工作機器

34億15百万円 (前期比 37.8%増)

ものづくり分野に向けた切削加工機 MDX シリーズや彫刻機 EGX シリーズの販売が堅調に推移しました。また、デンタル加工機 DWX シリーズは、コンパクトかつ低価格な新製品をリリースしたことに加え、サポート体制の強化や販売網の整備・拡充が着実に進んだことが奏功し、先進国を中心に販売が増加。工作機器の売上高は前期に比べ大幅に伸長しました。

サプライ

136億2百万円 (前期比 28.7%増)

プリンターの販売が好調だった北米、欧州を中心にインクの販売が増加し、前期を大きく上回りました。

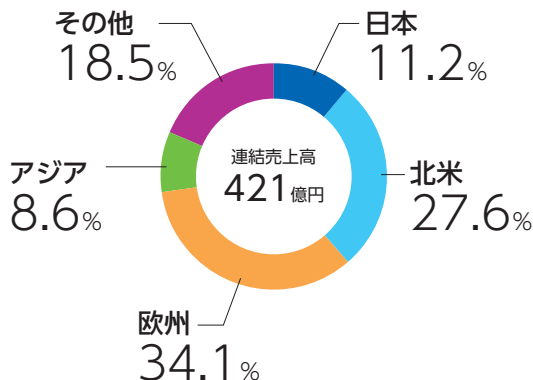
その他

45億58百万円 (前期比 26.1%増)

海外を中心に保守やサービスパーツなどの売上高が増加し、前期を上回りました。

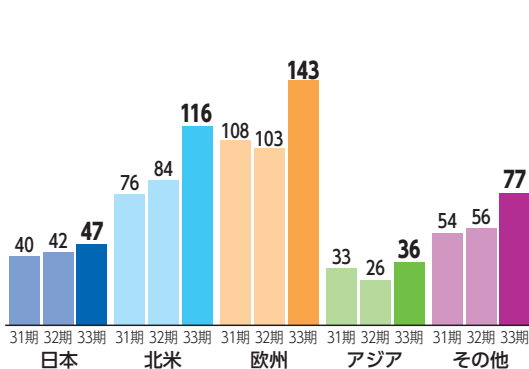
 地域別

● 売上高構成比 (第33期)



● 売上高推移

(単位：億円)



(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

日本

47億27百万円 (前期比 11.7%増)

プリンターでは、XR-640やXF-640が既存ユーザーの買い替え需要を中心に順調に推移しました。工作機器では、主力のMDXシリーズの販売が堅調に推移しました。また、DWXシリーズは、販売網の整備・拡充が進んだことや、平成26年度スタートの一部の義歯に対する保険適用にともなう設備投資需要を取り込んだことにより、前期を上回りました。

北 米

116億38百万円 (前期比 38.4%増)

プリンターでは、XR-640やXF-640が好調だったことに加え、低価格機種種のVSシリーズやRE-640が堅調な販売となりました。また、LEFシリーズが好調に推移しました。工作機器では顧客へのソリューション提案やトレーニング、サポート体制の構築が進んだDWXシリーズが大きく伸長しました。さらに、大幅な円安効果もあり、前期を大きく上回りました。

欧 州

143億54百万円 (前期比 39.2%増)

プリンターでは、XR-640とXF-640が売上を牽引しました。また、主に販売網の拡充が進んだロシアなどにおいて、RE-640が堅調に推移しました。LEFシリーズは、オリジナルグッズ製作用途で、複数台導入されるケースが増加するなど着実に販売を伸ばしました。さらに、大幅な円安効果もあり、前期を大きく上回りました。

アジア

36億33百万円 (前期比 34.9%増)

中国では、現地のサイン製作のニーズに対応したRA-640とデンタル加工機DWXシリーズが高い評価を得て大きく販売を伸ばしました。また、韓国においては、上期より販売子会社が本格的な活動をスタートするなど、アジア地域全体でセールス・マーケティング活動の強化を図ったことにより、売上を伸ばし、前期を大きく上回りました。

その他

77億89百万円 (前期比 38.7%増)

オーストラリアでは、XR-640やXF-640の販売が好調に推移しました。ブラジルでは、プリンターの低価格機種を中心に積極的なセールス・マーケティング活動を推進し、売上を伸ばしました。また、アフリカや中近東地域も堅調な販売となり、前期を大きく上回りました。

連結貸借対照表 (要約)

(単位：百万円)

科 目	32期末	33期末
〔資産の部〕		
流動資産	20,754	27,708
固定資産	10,873	11,217
有形固定資産	7,075	7,240
無形固定資産	2,891	2,982
投資その他の資産	907	994
資産合計	31,628	38,925
〔負債の部〕		
流動負債	5,822	7,031
固定負債	944	1,217
負債合計	6,766	8,248
〔純資産の部〕		
株主資本	26,833	30,476
その他の包括利益累計額	△ 1,972	200
少数株主持分	0	0
純資産合計	24,861	30,676
負債純資産合計	31,628	38,925

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 連結貸借対照表

流動資産では、現金及び預金为好調な業績により 45 億円の大幅な増加となり、受取手形及び売掛金も 11 億円の増加となりました。

流動負債では、短期借入金が返済により 15 億円減少しましたが、一方で増益にともない未払法人税等が 11 億円増加し、未払金等のその他の流動負債が 12 億円増加しました。

純資産は、株主資本のうち利益剰余金が配当の支払いによる減少はあったものの、当期の業績などにより 36 億円の大幅な増加となり、その他の包括利益累計額に含まれる為替換算調整勘定も円安により 22 億円増加しました。

POINT 投資活動によるキャッシュ・フロー

前期は、ブラジル子会社の取得や少数株主からの子会社株式の買取、タイ子会社の土地、建物等を含む有形固定資産の取得などが主な支出となりました。一方、当期は、有形固定資産や無形固定資産の通常の取得が主な支出となりました。

POINT 財務活動によるキャッシュ・フロー

前期は、短期借入による調達で収入増となったのに対し、当期は短期借入金の返済により支出増となりました。

さらに詳しい情報につきましては、下記のIRサイトをご覧ください。

<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

ローランド ディー.ジー. IR

検索

連結損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	32期	33期
売上高	31,264	42,141
売上原価	19,315	21,815
売上総利益	11,948	20,326
販売費及び一般管理費	10,524	14,215
営業利益	1,423	6,111
営業外収益	94	311
営業外費用	211	178
経常利益	1,306	6,244
特別利益	15	8
特別損失	120	68
税金等調整前当期純利益	1,201	6,183
法人税等	795	1,918
少数株主損益調整前当期純利益	406	4,265
少数株主利益又は少数株主損失(△)	49	△ 0
当期純利益	356	4,265

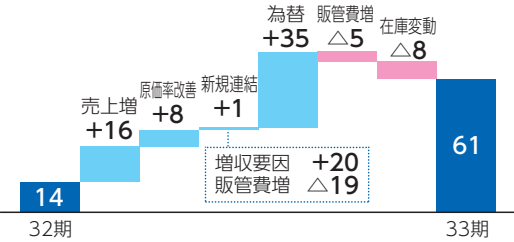
※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 連結損益計算書

売上高 為替の影響を除いた実質的な売上高の増収分や新規連結子会社の増加に加え、57 億円の円安効果もあり、全体では 108 億円の増収となりました。

営業利益 売上高の純増や原価率の改善に加え、円安効果が大きく寄与し、販管費の増加や在庫変動の影響を吸収して大幅な増加となりました。結果、営業利益は前期と比較して、47 億円の増益となりました。

〈営業利益の変動要因〉 (億円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	32期	33期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,805	6,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,544	△ 1,236
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,177	△ 2,242
現金及び現金同等物に係る換算差額	269	941
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 291	3,817
現金及び現金同等物の期首残高	6,727	6,896
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	459	—
現金及び現金同等物の期末残高	6,896	10,713

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

POINT 営業活動によるキャッシュ・フロー

増加要因は、好調な業績により税金等調整前当期純利益が大幅に増加したこと、また、たな卸資産が大きく減少し、未払金等のその他の流動負債が増加したことなどによります。減少要因は、売上債権やその他の流動資産が増加したことに加え、法人税等の支払額が増加したことなどによります。

中期経営計画見直し

当社では、2013年度を初年度とした、3ヶ年の中期経営計画をスタートさせております。当期は主力の業務用大型インクジェットプリンターを中心に好調な販売が続いたことに加えて、当初計画に対し為替レートが大幅な円安となったことなどにより、最終年度の定量的な営業利益目標を達成しました。したがって、経営環境の変化や2013年度の業績を踏まえ、当初の想定為替レートおよび2014年度、2015年度の数値目標を見直しました。なお、基本方針や重点テーマに変更はありません。今後も各テーマに沿った活動を推進してまいります。

修正数値計画

	33期 (2013年度)	34期 (2014年度)		35期 (2015年度)	
	実績	当初計画	修正計画	当初計画	修正計画
売上高	421億円	400億円	458億円	450億円	494億円
営業利益	61億円	30億円	69億円	45億円	75億円
営業利益率	14%	7%	15%	10%	15%
1 米ドル	97円	90円	100円	90円	100円
1 ユーロ	127円	120円	135円	120円	135円

中期経営計画の基本方針

GlobalOne 構造改革を推進し「新たな成長への経営基盤を構築」する

3つの重点テーマ

1. 新たな成長機会の創出

2. 「安心・信頼」
ブランド基盤の強化

3. 多様性のマネジメント

重点テーマ 1 新たな成長機会の創出

当社グループの強みが活きる市場を創出・育成していくことを最重要テーマとし、営業と開発が一体となった製品開発を進めています。

カラー事業については、これまで培ってきたインクジェットの技術バリエーションを拡充していくことで、新たな付加価値を持った独創的なソリューションを開発・提案してまいります。

3D事業については、企業・個人を問わず「新たなものづくりムーブメント」で近年注目を集める、3Dものづくり分野に向けて、2014年秋頃を目途に「小型3次元積層造型機(3Dプリンター)」「小型3次元切削加工機」の世界同時発売^{*}を予定。ものづくりにおける新たな価値の創造を提案してまいります。

※正式な発売時期および詳しい仕様などは決まり次第、当社ホームページなどで改めてお知らせいたします。

重点テーマ 2 「安心・信頼」ブランド基盤の強化

当社では、これまでお客様の感性に訴える機能やデザイン、ユニークさを大切にしながら、高品質で、簡単、安全に誰でも扱いやすい製品づくりに努めてまいりました。同時に、クリエイティブセンター、アカデミー、ケアの3つの活動を通じて、お客様に安心して当社製品を導入・活用いただけるサービスの提供にも取り組んでいます。当期にはクリエイティブセンターの拡充および世界規模でのサービスエンジニアの技能コンテストを開催するなど、顧客サポートの強化を図りました。

重点テーマ 3 多様性のマネジメント

1. グローバル市場の3極マネジメント

構造改革の一環として、販売体制の見直しを行い、世界を「欧州・中東・アフリカ」「アジア・パシフィック」「米州」に区分し、3つの地域本部体制に改編しました。先進国で培ってきたノウハウを活かした販売やマーケティングで新興市場の開拓を推進してまいります。

2. グローバルものづくり

日本の開発・製造体制に、タイの生産工場を加えて、開発・生産・調達業務を分担し、多様化する市場ニーズに適した製品の提供、コスト競争力や為替対応力の向上を目指しています。2012年10月に稼働を開始したタイ工場では、プリンターの主力製品Versaシリーズの生産を行い、当社プリンター生産の約30%を占めるまでになりました。需要増に対応するため2014年1月よりタイ工場の増築工事を行っており、9月に完了予定です。さらに、部品の現地調達率40%を目指し、収益力向上に取り組んでまいります。

3. 人材の多様性を活かす組織

海外販売子会社CEOの本社取締役および執行役員への登用など、グローバルな人材交流を推進しています。ユニークで革新的な価値を生み出し続ける企業風土を築いてまいります。



「SE Awards of the World 2013」開催



10月28日-30日、浜松本社にて当社製品の修理・メンテナンスに携わる全世界のサービスエンジニア(以下SE)を対象にした初の技能コンテスト「SE Awards of the World(エスイー・アワード・オブ・ザ・ワールド)2013」が開催されました。

SE Awardsは、お客様へ高品質かつ均質なサービスの提供と、SEのモチベーション向上を目的に企画され、2009年より日本国内のSEを対象に毎年開催しています。開催5回目となる今回は、メンテナンスサービスの品質を世界レベルで向上させることを目的に、初の世界大会を実施。国内営業所および海外販売子会社が選抜した20名のSEが技能と知識を競いました。コンテストでは、当社プリンターに使われているプリントヘッドの交換や故障した製品の復旧などを行う実技試験と、ハードウェアやソフトウェアに関する筆記試験で構成され、それぞれの課題をいかに正確に、効率良くこなすかという観点から審査されました。

競争が激化するグローバル市場においては、付加価値の高いサービスを地域を問わず均質に提供することで、お客様に当社のファンであり続けていただくことが重要です。今後も「SE Awards of the World」を通じて、それぞれが保持するノウハウや成功事例の共有を促進するとともに、グループ全体として質の高いサービス文化の醸成に努めてまいります。

*本誌表紙にはSE Awardsの様子の写真を掲載しています。



プリントヘッドの交換作業の試験では、参加者も審査側に加わり、お互いに学び合う場となりました。



ユーザー訪問という設定でプリンターの故障の原因を迅速に究明し、正常な状態に戻す、という課題に取り組みました。



1問につき制限時間10分、全10問を解答する筆記試験では、幅広い知識が問われました。

初代チャンピオン

ヤンニヒ ファン デ ウォーウェル(ベルギー出身) SE歴: 9年

コンテストに参加するにあたってあらゆる準備をしてきましたが、まさか優勝するとは思いませんでした。ただ、何事も中途半端が嫌いで、何かをする時は全力で臨みます。その姿勢が評価されたのだと思います。試験でも私の知識外のことが問われましたし、改善できるところがまだあります。まずはその点をクリアし、技術力をさらに上げていきたいと思います。



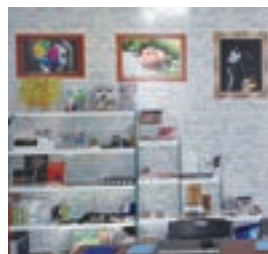
社長の富岡より優勝杯を受けとるヤンニヒ(左)



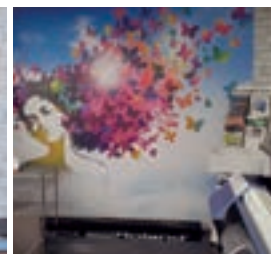
国内各地にクリエイティブセンター開設



2013年11月の札幌を皮切りに、翌年1月に仙台、3月に沖縄にて、販売店様のショールーム内に当社製品を紹介するスペースとして新たにクリエイティブセンターを開設しました。クリエイティブセンターは、業界の最新情報を発信するとともに、当社製品を活用した作品を展示し、お客様へビジネス提案を行うためのコミュニケーションスペースです。国内においては本社および営業所(東京、名古屋、大阪、福岡)に設置していますが、遠方にお住まいのお客様にも当社製品にできることを実際に見て、感じていただきたく、クリエイティブセンターのコンセプトに共感いただいた販売店様との協業により実現しました。



札幌クリエイティブセンター



仙台クリエイティブセンター



ドイツにデンタルアカデミー開設



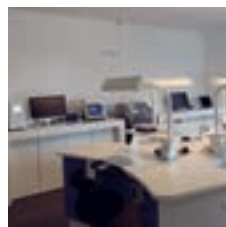
Roland DG Academy

2月12日、ドイツの子会社Roland DG Deutschland GmbH内に歯科医療関係者向けに特化した、デンタルアカデミー^①を新たに開設しました。デンタルアカデミーは、歯科技工所をイメージし、デンタル加工機DWXシリーズと連携できるスキャナ、ソフトウェアなど実際に義歯製作に必要な機材を取り揃えています。高品質な切削加工を効率的に行えるプロセスを体験していただくことで、DWXシリーズの導入支援を行ってまいります。



ローランド ディー.ジー. アカデミーとは？

当社製品やソフトウェアをフルに活用いただくために、実際にパソコンを操作しながらノウハウの習得を目指す講習やワークショップなどを開催する、当社独自の取り組みです。



デンタルアカデミーの施設



オープニングセレモニーの様子

Roland DG Deutschland GmbHデンタルチーム

峰野洋介(写真右端)

ドイツは歯科医療機器業界の競合他社が多く、世界的に見ても最も先進的かつ市場規模が大きい国で、当社でも重要市場と認識しています。ドイツ市場開拓の足がかりとして、DWXシリーズの優位性を伝えていくために、アカデミーの開講を始めとする、ユーザーサポートの充実により他社との差別化を図っています。お客様のビジネス発展に貢献していくことで、当社ブランドの構築を目指します。



子会社の設立

2014年3月、欧州地区における資金の集中的調達・管理・運用といった経営資源の再配分をより機動的に行うために、持株会社Roland DG Europe Holdings B.V.をオランダに設立しました。また、来期には、デンマークの販売子会社の担当エリアとなっているロシアにおいて、当社製品の販売促進活動やお客様へのアフターサポートを行う子会社を新たに設立する予定です。今後も、効率的な業務運営と地域ごとのニーズにきめ細やかに対応できる体制作りに取り組んでまいります。

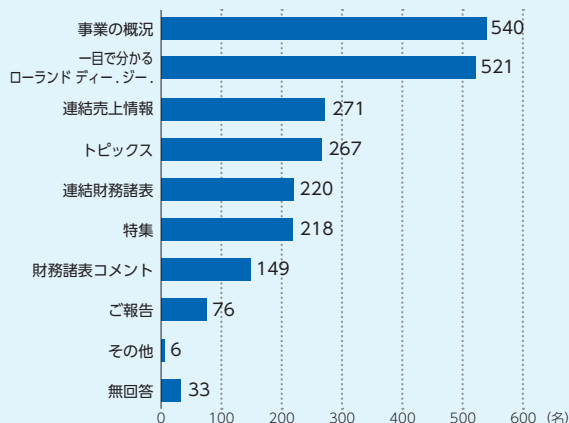


DG Value News アンケート集計結果

期 間：2013年12月10日～2014年3月31日
回答数：996名(2013年9月30日現在の株主数10,136名)

当社が提供する新しい価値を株主の皆様へわかりやすくお伝えできるよう、アンケート結果を参考にさせていただくとともに、株主の皆様からいただいた貴重なご意見・ご要望は今後の経営に活かしていきたいと考えております。下記にアンケート集計結果の一部をご紹介します。

Q 本誌をお読みになり、興味を持たれた項目をお聞かせください(複数回答可)



前回アンケートでは、事業の概況への関心が高く、特に3D事業への期待のお言葉を多数いただくことができました。ありがとうございました。33期連結業績につきましては、新製品効果と北米や欧州での円安の影響を受け、大幅な増収増益となりました。これにより中期経営計画の最終年度の利益目標を1年で達成したことから、計画の見直しを行いました。今回の特集では、その見直しの内容と目標について取り上げさせていただきます。経営環境の変化が激しい中でも持続的な成長を実現できる体制の構築に向け、GlobalOneを推進してまいります。

会社概要

商 号	ローランド ディー.ジー.株式会社
設 立	1981年5月1日
資 本 金	3,668,700,000 円
主な事業内容	コンピュータ周辺機器の製造販売
従 業 員 数	1,119名(連結)

役員一覧 (2014年6月18日現在)

取締役会長兼社長 ^{*1}	富岡 昌弘	
取締役副会長	ロバート・カーチス	
専 務 取 締 役	鈴木 渉	
常 務 取 締 役	堀田 修史	
取 締 役	デビッド・ゴワード	
取 締 役	藤岡 秀則	
社 外 取 締 役 ^{*2}	広瀬 卓生	^{*1} 代表取締役です。
社 外 取 締 役 ^{*2}	書馬 明	^{*2} 社外取締役 広瀬卓生氏 および書馬明氏、
監 査 役	中川 正則	社外監査役 木下雅裕氏
監 査 役	鈴木 正康	および遠藤克博氏は、(株)
社 外 監 査 役 ^{*2}	木下 雅裕	東京証券取引所が定める
社 外 監 査 役 ^{*2}	遠藤 克博	独立役員です。

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

事業所

本 社	浜松市北区新都田一丁目6番4号
都 田 事 業 所	浜松市北区新都田一丁目1番3号
営 業 所	東京、名古屋、大阪、福岡
サポートセンター	札幌、仙台、広島

海外グループ会社

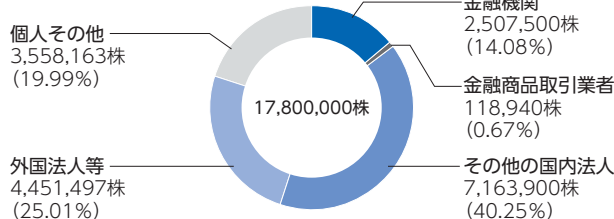
Roland DGA Corporation (アメリカ)
 Roland DG Benelux N.V. (ベルギー)
 Roland DG (U.K.) Ltd. (イギリス)
 Roland Digital Group Iberia, S.L. (スペイン)
 Roland DG Mid Europe S.r.l. (イタリア)
 Roland DG North Europe A/S (デンマーク)
 Roland DG Australia Pty. Ltd. (オーストラリア)
 Roland DG (China) Corporation (中国)
 Roland DG Korea Inc. (韓国)
 Roland DG Brasil Ltd. (ブラジル)
 Roland DG EMEA, S.L. (スペイン)
 Roland Digital Group (Thailand) Ltd. (タイ)
 Roland DG Deutschland GmbH (ドイツ)
 Roland DG Europe Holdings B.V. (オランダ)

株式の状況

発行可能株式総数	71,200,000 株
発行済株式の総数	17,800,000 株
株 主 数	8,976 名

株 主 名	持株数	出資比率
ローランド株式会社	7,120,000株	40.00%
TAIYO FUND, L.P.	1,683,800株	9.46%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	888,100株	4.99%
ビーエヌワイエムエル ノントリーティー アカウント	669,700株	3.76%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	420,000株	2.36%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	407,500株	2.29%
ローランド ディー.ジー.社員持株会	396,900株	2.23%
富岡 昌弘	311,200株	1.75%
MSCO CUSTOMER SECURITIES	235,396株	1.32%
ジェーピー モルガン チェース バンク 385181	177,000株	0.99%

所有者別状況

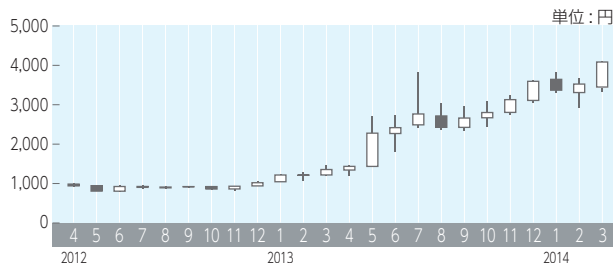


※自己名義株式460株は「個人その他」、証券保管振替機構名義株式8,500株は「その他の国内法人」に含まれています。

※記載比率は、小数点第2位未満を四捨五入して表示しています。

(注) 上記の「株式の状況」および「所有者別状況」につきましては、2014年5月15日から6月11日までの期間で実施した自己株式の公開買付けの結果は反映しておりません。

株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会開催時期	6月
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会の議決権 および期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告します。
公告方法	当社の公告は電子公告とし、 インターネットホームページに掲載します。 http://www.rolanddg.co.jp/ir/index.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-7111(通話料無料) [受付時間9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] ホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/
株主優待	毎年3月31日現在の1単元(100株)以上所有の株主様に、年1回当社が選んだ世界各国の名産品(3,000円相当)を掲載したオリジナルカタログの中から一品を選択していただくものです。(2014年6月実績)
本誌に関する お問い合わせ先	IR課 TEL 053-484-1400
株式・株主優待に 関するお問い合わせ先	総務課 TEL 053-424-5041

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



IRサイトのご案内

当社では株主や投資家の皆様に当社を正しくご理解いただくとともに、最新情報を公平かつ迅速に提供することを目的に、ホームページを活用した情報開示を行っています。ぜひ、当社ホームページ「IR 情報」をご覧ください。



● 最新IRイベント

直近の決算発表日や個人投資家向け IR フェアの出展など、IRに関する最新のイベント情報をお知らせしています。

● IRメール配信

メールアドレスをご登録いただいた方には、ニュースレターや決算情報などの最新情報をメールにてお知らせしています。

● はやわかりローランド ディー・ジー

「事業内容」や「業績」などの基本情報のほか、「当社の強み」や「当社製品の活用事例」などをわかりやすく紹介しています。

今後も皆様のご意見を反映させながら、IR 活動の充実を図ってまいります。

<http://www.rolanddg.co.jp/ir/>

ローランド ディー・ジー IR

検索